



へば図書館さ行くべ 第二回

前回までのあらすじ

授業中にうっかり居眠りをしてしまったサキは、レポートを作成するために友人と図書館を訪れるのだった。

「ここが図書館か〜」

実は大学に入ってから、図書館に来るのは初めてだった。何やら通つてはいけない雰囲気ゲートがある。

ヒロは慣れた手つきで何かをピツとかざして、さっさとゲートの向こうに行つてしまった。え、どうしよう。私がゲートの前であわてていると

「学生証」

「う、うん」

よくみるとゲートには「学生証の裏のバーコードをかざしてください」って書いてある。そっか。このバーコードって、こういうときに使えるんだ。

財布から自分の学生証を出してそこに当てると、ピツと音がしてゲートが開いた。おお。ちょっと楽しいかも。

「で、図書館で何をするの?」

先に入ったヒロは、さっさと歩いて行つて、柱のところにあるパソコンの前で止まった。

「レジユメの最後。参考文献が書いて

らべ?」

「えっと…」

さっきの授業で配られたレジユメ。確かに、最後の項目は参考文献リストになっている。

「この本を読めば、今日の授業内容の補足になるはんで」

「あるの?この本。ここに?」

「ほら」

画面に映っている白い四角に、ヒロが慣れた手つきで本のタイトルを打ち込んでいく。そして、検索ボタンをクリックすると…

「ほら、あつたべ?」

「へえ〜!こんな風にして調べられるんだ〜!」

本の表紙とタイトル、あとよくわからないけど、いろいろな情報が表示されている。

「で、この本はどこにあるの?」

「こさ書いてらべさ。開架二階」

「かいか?」

「開かれている、オープンな書架…本棚ってこと。その階段で二階さ行けばフツーにあるはんで」

◆◆◆

「いや、フツツって言われても…」

階段を上つて左に曲がったところで、私は茫然とした。

「めちゃくちゃ多いんですけど!」

右を見ても左を見ても、見渡す限り本棚がズラリと並んでいる。いくつあるのか数えようとして、八くらいで諦めた。

「こ、この中から探すの…?」

背表紙を見ながら端から端まで歩くのを想像すると眩暈がする。

「大丈夫だつて」

ヒロはスマホをじつと見てから、顔を上げて迷いなく歩き出した。ちらつと見えた画面には、さっきの本の情報が映っている。いつの間撮ったんだ

ろう。

「こさ番号書いてらべ?」

よく見ると、並んでいる本の背には数字とアルファベットが書かれたシールが貼つてある。この三段の形、さっき見た画面にもあつたような。

「図書館の本は、請求記号…この番号順に並んでるはんで」

一番上の番号が優先で、一番上の番号が同じ本は二段目の英数字の順に並んでいる…らしい。

「…なるほど?」

この番号が何を示しているかはまだわからないけど、この英数字を頼りに探せば、この本を見つけれられるってことは、わかつた。

「えーつと、じゃあ三…?」

ちょっと宝探してみたいだなあ。

つつく

